経済発展の光と影



社会や人々は、何を求めていたのでしょうか？

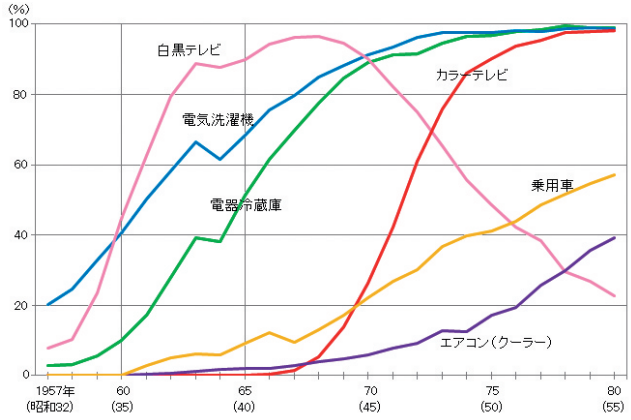
高度経済成長

日本では、1950年代後半～60年代にかけて、重化学工業化が推進され、経済の高度成長を遂げました。社会や人々は豊かさを求めていました。

1950年代前半に戦後復興を完了し、1950年代後半には海外から導入した技術をもとに積極的な技術革新が行われ、新しい産業を興すための生産設備が続々と新設されました。

1960年代に入り国民所得水準の上昇などにより大衆消費社会が出現すると、家庭電気製品等の需要が急速に増大しました。（文部科学省「科学技術白書」より引用、一部改編）

家庭電気製品・乗用車の普及率



（内閣府消費動向調査「主要耐久消費財等の普及率」データをグラフ化）

公害の発生

高度成長の過程で、工場から処理をされずに排出された有害物質により水や大気などが汚染され、健康や命への深刻な被害を及ぼす産業公害が各地で発生しました。

このころの公害の典型は、企業が加害者となり、住民に被害を与えたもので、経済発展に伴って生じたひずみとも言われています。

四大公害病の発生地域



四大公害病

四大公害病	発生時期	被害地域	主な原因	原因企業・裁判
イタイイタイ病	1922年ごろ	富山県神通川流域	カドミウムによる水質汚濁	三井金属鉱業神岡鉱業所 1968年提訴
水俣病	1953年ごろ	熊本県・鹿児島県の八代海	メチル水銀による水質汚濁・食物連鎖濃縮	チッソ水俣工場 1969年提訴
四日市ぜんそく	1960年ごろ	三重県四日市市	硫黄酸化物などによる大気汚染	昭和四日市石油など6社 1967年提訴
新潟水俣病	1964年ごろ	新潟県阿賀野川流域	メチル水銀による水質汚濁・食物連鎖濃縮	昭和電工鹿瀬工場 1967年提訴

※「昭和電工㈱」は2023年に「㈱レゾナック・ホールディングス」に社名変更

ふつうの暮らしの中で起こってしまった悲劇

新潟の阿賀野川流域に住む人たちは、阿賀野川を母なる川と呼び、川の恵みである川魚を食べ、飲料水や生活用水に使い、また、農業用水や重要な交易路として利用してきました。

ところが、阿賀野川とともに、ただ普通に生活をしていた人たちが、ある日突然、公害「新潟水俣病」の被害にあってしまったのです。